

## 【伊藤総領事メッセージ 2018年6月】

近年、日本の花見の季節は3月下旬から4月頃のように、特に厳しく長い冬を過ごした今年のトロントでは、各地にある桜は5月になってようやく咲き始めました。5月8日、トロントで一番の桜の名所と言われるハイパークで、桜の開花に関する記者会見が行われ、ジョン・トーリー市長や地元の市議の方々と共に、



私も桜色の着物を着て出席しました。

この桜は、第二次世界大戦後に収容キャンプ等から解放されたもののロッキー山脈以西に戻ることを許されずトロントに移り住んできた日系人を受け入れてくれたことに対し、東京都民が感謝の気持ちを込めて1959年にソメイヨシノを寄贈したことから始まり

ました。平日でも多くの人々が「花見」に訪れ、市長が記者会見で「自家用車ではなく公共交通機関を使って欲しい」と呼びかけるほどの大混雑になるのだそうです。花見がトロントの人々にそれほど浸透しているとは知らなかったのが、公園入口から駐車場にたどり着くまで1時間以上もかかるという話を聞いて本当に驚きました。

一方、5月26日には、昨年植樹をしたばかりの八重桜が咲いたウッドバイン公園の桜祭りに行ってきました。植樹から一年しかたっておらず、幹もまだまだ細いのですが、厳しい冬を乗り越えて美しい花をしっかりと咲かせてくれました。この桜は、トロントに在住する日本人の篤志家の方々によって寄贈されたもので、まだハイパークのように多くの人々が押しかけるほどにはなっていませんが、何十年もかけて大きくなり、いずれ人々も花見の名所として楽しんでくれるのではないかと思います。



また、5月25日にはトロントから車で約2時間ほどのところにある、コリングウッド町を訪問しました。ここは人口は2万2千人ほどの小さな町ですが、大阪府交野市との姉妹都市交流を37年間も続けてきています。交野市との友情の証である

Friendship Gardenには、桜の木と楓の木、鳥居や東屋などがあり、市民の憩いの場となっていました。ここでも

人々の善意により、遠く離れたカナダで桜の花が咲き誇っていました。



日本文化がカナダの人々に愛されているのは、桜の花だけではありません。5月24-26日にミシサガ市で開催された「アニメ・ノース」には、今年も3万人を超える参加者があったよう



です。北米において、アニメやマンガに関する非営利ベースで行われる行事としては最大のものであるとのことで、アニメ製作者や声優との交流会、様々なテーマでのセミナー、アニメの上映会やメイド・カフェ、アニメや日本文化に関係する様々な商品の展示販売、コスプレ大会など、



様々な活動が広大な敷地の中で繰り広げられています。そして、その会場にあふれるコスプレ衣装を身につけた多くの老若男女のアニメ・ファン達！コスプレのレベルも高く、思わず見入ってしまうような傑作も少なくありませんでした。これほどまでに多くの人々に日本のアニメが愛されている様子を目の当たりにしたことは、本当に衝撃的でした。

そして5月31日には、今年で第7回となる「カンパイ・トロント」に出席しました。これは、日本酒をトロントの人々に紹介するべく、オンタリオ州日本酒輸入協会が開催しているイベントです。日本酒の専門家の方々がカナダのメディアやレストラン関係者、そして一般の方々にセミナーを通じて日本酒の紹介や、試飲や日本食とのマッチングなどを行っていました。毎年来訪者が増加しているとのことで、カナダにおける日本からのアルコール飲料の輸入量も過去5年間で



約2倍増、2016年から2017年の間の1年間で約20%増えているそうです。私が最初にカナダに着任した約30年前と比べると、日本酒はオンタリオ州にかなり広く輸入されるようになりました。しかし、欧州や米国のワインと比べるとまだまだ売り場面積も少なく、日本の風土や文化と深く結びついた日本酒の素晴らしさは知られていないと思います。日本食と共に日本酒も着実に広がってほしいというのが私の希望でもあり、公邸にお客様をお招きする際には必ず日本酒をお出しています。ちなみに、被災地支援のために東北のお酒を入れるようにしています。



草の根レベルで日本の文化がいかに多くのオンタリオの人々に愛されているかを、つくづく実感することができた一ヶ月でした。これらの活動を支援し、もっと多くの方々が日本を知り、日本を好きになってもらえるべく、総領事館としても一層努力して行く所存です。